

オーロラさんの館



見えない世界の借金

フルーツとタルト

作者 フルーツとタルト

M.I

見えない世界の借金

今日のメニューは、秋刀魚のマリネ　ーオニオンと生姜のドレッシングー

暑くてバテ気味になってしまった体にはピッタリです。

「あら碧さん、お久しぶりね。元気にしてたの？」

「オーロラさん、ご無沙汰しております。実は先日、お財布をスラれてしまいました...」

「まあ！それは災難だったわね」

「ええ...しばらくは外に出る気持ちになれなくて、家で大人しくしていました」

オーロラさんはオレオを撫でながら、碧さんをしばし見つめて言った。

「碧さん、人っていうのは、誰かに甘えてばかりでお世話になりっ放しだと、それが見えない世界の借金として積み重なるの。その分は、必ず誰かが回収に来るのよ。代償が自分に跳ね返って来るものなの」

「借金、ですか～ やっぱり、そうなんですね...」

何か思い当たる節がある様子で碧さんが答える。

「その日、家族とケンカしたんです。私のワガママで...」

何となく後味の悪いまま、それでも予定通り一人でショッピングに出かけたら、そんな事に...」

「もう済んでしまった事は仕方ないわね。気づいたら軌道修正すればいいのよ。

借金を精算して、これからは増やさないようにするのよ」

「どうすればいいですか」

「自分の置かれた立場で、やるべき事をしっかりやらなきゃダメ！

今まで家族に任せっ放しにしていた事の中にも、ちょっとした気遣いで碧さんが出来る役割はたくさんあるでしょう」

「はあ・・・」

「この世での借りは、そのまま見えない世界の借金にもなるのよ。

また痛い目に遭ってもいいの?!」

「出来ない事を無理にやりなさいと言ってるんじゃないのよ。楽を求めちゃダメなの。自分の役割を果たすのよ」

ズバリと指摘された碧さんは、その言葉が痛いぐらいに胸に突き刺さっているようだった。

オーロラさんは明るくサバサバと言葉を続ける。

「まあ命を取られなかったんだから、良かったじゃない。気持ちを切り替えて！」

「ほら、美味しい料理をみんなで楽しく頂けば元気も出るわよ！」

温かい励ましに、碧さんも頷いた。

「さあ、始めましょう～」

あれこれと考えている暇はない。鮮度が勝負の秋刀魚の処理！

秋刀魚は三枚におろしたら、皮を引き、骨を丁寧に取り除く

鮮度が落ちないように手早くね！

「今日は、お料理と一緒にワインも頂きましょう～

co le jinsei の特別な赤ワインよ」

脂ののった秋刀魚には赤ワインも良く合います。



しかし、この話はこれだけでは終わらなかった。

お財布の話も忘れかけた2ヶ月後...

普段はあまり感情を表に出さない碧さんが、少し興奮気味に入って来た。

「オーロラさん、戻って来ました！ 諦めていたお財布が、遠く離れた県から...中のお金もクレジットカードも手つかずで丸ごとです！」

「あら！それは奇跡的ね～。これからもきちんと自分の欠点を改善する努力は続けるのよ。もう同じ間違いをしちゃダメよ」

「はい！」

碧さんの力強い返事は、自分自身にも言い聞かせているようだった。

弱い自分と闘い続けなければ、また見えない世界の借金が積み重なって自分に跳ね返ってくるのね...

あれから意識はしてる。頭では分かっているけど、継続するのは大変！

でも、自分の幸せな未来の為だから頑張れる！

そう、無事にお金も届いたのだから、私の決意も込めて見えない世界にもお返しをしたいわ。

料理教室で頂いたあの時の赤ワインがおいしかったから、

今日は気持ちを込めて赤ワインを用意しましょう！！

秋刀魚も買って帰りましょう。なにごととも忘れないようにレッスン、レッスン。

オーロラさんの館～見えない世界の借金

<http://p.booklog.jp/book/76543>

著者：フルーツとタルト

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/fruitandtart-5/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76543>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76543>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ